



吉野正敏 著
自然地理学講座
気候学

大明堂，1978，A 5 版，350頁，2,500円。

1980年代から、気候が気象分野でもっとも大きな研究目標になるだろうと言われている。来年2月にはジュネーブで世界気候会議—気候と人間に関わる専門家会議—が開かれるのも、WMOが中心になって推進している世界気候計画(WCP)の一つである。気候学はやがて気象学の大きな分野になるだろう。このような時期に、日本の代表的気候学者である吉野会員が「気候学」を出版したことは日本の現状を知る上で大変に興味がある。

本書は、第1章 序論、第2章 気候の表現・分類、

第3章 大気候、第4章 中気候と小気候、第5章 過去の気候が記述され、日本の気候から世界の気候まで、そして下層から成層圏まで触れている。これは、著者がすでに出版している気候学、小気候、季節風(共著)を集大成したようなもので、大事なことはほぼ網羅されている。さらに、各章ごとに参考文献が整理され、付録には内外の気候学の教科書、資料、雑誌がまとめてあるのは重宝である。

難を言うと、全般に論理的な思考が展開されていない。たとえば、突然昇温について松野を引用していながら、その成果については一言も触れていないことや、都市気候の形成でCO₂や細じんを触れているが、その放射上の量的議論に踏み込んでいないのは、これからの若い学生達にとって物足りなさを感じさせないだろうか。

本書は、毎頁に表か図が配置され、実に楽しく読みやすいように工夫されている。学生だけでなく、気象技術者が気象のいろいろな現象を独力で勉強するのによいため、多くの方々におすすめしたい。(朝倉 正)

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
第15回自然災害科学総合シンポジウム	昭和53年10月20日～21日		九州大学記念講堂
気象衛星データの学術利用に関するシンポジウム	昭和53年11月3日～5日		気象庁 学士会館分館
昭和53年度日本気象学会秋季大会	昭和53年11月14日～16日	日本気象学会	宮城県民会館
第25回風に関するシンポジウム	昭和53年11月28日		東京大学宇宙航空研究所 本館講堂
第1回南極氷水圏シンポジウム	昭和53年12月5日		国立極地研究所
構造物の耐風性に関する第5回シンポジウム	昭和53年12月5日～6日	日本気象学会ほか	気象庁
気候変動シンポジウム	昭和53年12月7日		気象庁